

学位記授与式 式 辞

日増しに暖かさを感じる三月、本日ここに、卒業生・修了生の皆様が、学位記を手になされ、本学から新たな世界に巣立っていかれることに對し、大学教職員と在校生を代表して心からお祝い申し上げます。ご来賓各位には、ご多忙の中を本学の学位記授与式にご臨席を賜り、心からお礼申し上げます。

現在は、新型コロナウイルスについては、依然警戒していかなければならない状況にあることから、やむを得ず保護者の皆様の不参加をはじめ、式を縮小する形で挙行することとなりました。何卒ご理解いただければと考えております。

昨年二月以降、新型コロナウイルスの影響により、私たちの生活がこのように一変するとはだれも予想しなかったと思います。本学においても初めての経験の中で、第一に学生や教職員の安全を考慮し、国や県などの指示のもとこれまで対応して参りました。卒業生のみなさんも、学生生活最後の一年間において、学修活動や課外活動の面などにおいて心残りの部分が多多くあったことと思います。この点は、私たち教職員も重く受け止め、たとえコロナ禍にあっても、学生の皆さんが満足の行くキャンパスライフを送れるよう、しっかりと改善策を講じて参りたいと考えています。

さて、本日ここに学位を授与された皆さんは、時代の変化にきちんと対応して、自らを常に新しく創造していく人間の育成という「作新民」の建学の精神と、そこから導かれる「自学・自習」「自主・自律」の二つの教育方針を胸に、大学・大学院及び女子短期大学部のそれぞれの専門分野において研鑽を積み、今日の晴れの日を迎えられたわけです。

皆さんが生きていくこれからの時代は、我が国のみならず世界的規模で発生している自然

災害や今回のコロナウイルスをはじめ、これまで想定していないような問題や課題が生じてくることが予想されます。

こうした状況の中で、私たち一人一人が心がけておかなければならないことは、まず何よりも、どのような時代になろうとも、しっかりとその状況を的確に判断・認識し、想像力と柔軟さを持って対応していける人間力を養っていくことです。言い換えれば、メディアをはじめ、様々なプロパガンダや主義・思潮に左右されず、またマニュアル的思考に陥らず、しっかりと自分の考えをもつて行動していくということです。自己という一人での大航海の旅は、ある意味寂しく、孤独であり、さまざまな挫折や失敗による試練にたびたび遭遇するかもしれません。しかし、その試練をむしろ自ら楽しみに変えて、自己を見つめるよい機会であり、さらに自分への挑戦のためのチャンスであると、ポジティブに考えてみてください。少しでもその意識を変えることにより、自分自身の夢の実現に一步でも近づくことができると思います。「作新民」の精神のもと、この学び舎で研鑽を積まれたみなさんならば、きっとそれが可能であると信じています。

もちろん人間は一人では生きていけません。多くの人やものなどと「つながり」をもって生存しているわけです。世界中のさまざまな分野の人間が〈生命〉という視点から危機感を共有し、地球を守るための一つのムーブメントとして広げていくことにより、可能性が見えてくると考えます。現在、いわゆるSDGs（持続可能な社会の構築の目標）といわれる活動が世界中で実施され、日本でもその取り組みが広がって来ています。本学もまた、宇都宮市SDGs人づくりプラットフォームの会員として活動しております。

一人一人の人間の身近で「小さな行ない」により、それらがやがて大きなムーブメントとなるということです。これからは未来を切り拓いていく若い世代が中心となって活動していくことが肝要です。ぜひ皆さんも、そのムーブメントを起こす一翼を担って行ってくださる

ことを強く期待します。

最後になりますが、現代さらにはこれからの未来において最も重要と考えられる精神である「作新民」としての卒業生・修了生の皆さんが、今後様々な分野で活躍されることを祈念し、私の式辞といたします。

令和三年三月二十一日

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

学長 渡邊 弘